

【拠点形成概要及び採択理由】

機 関 名	東京大学
拠点のプログラム名称	共生のための国際哲学教育研究センター
中核となる専攻等名	総合文化研究科超域文化科学専攻
事業推進担当者	(拠点リーダー) 小林 康夫 教授 外 2 2 名
<p>【拠点形成の目的】</p> <p>21世紀COEプログラム『共生のための国際哲学交流センター』は、「共生」という根本理念のもとに人類の未来を切り開く哲学的な思考を探求し、アジア・北米・西欧の三極の交流を通じて、実りある学術成果をあげた。グローバルCOE『共生のための国際哲学教育研究センター』では、この成果を発展的に受け継ぎ、さらに国際的な学術交流を通して、グローバリゼーションという前代未聞の時代における「人間存在の再定義」のための哲学的な共同研究ネットワークの拠点形成を目指す。</p> <p>また、本拠点は、総合的な思考能力を有する若手研究者を、あくまでも実践の場において養成する高度な教育的機能も果たす。自然科学や最新テクノロジーから表象文化、宗教文化までを問題化する幅広い知的受容能力、創造的な知の対話に開かれた国際的な言語実践能力、そして、諸文化の歴史的基層に通じた総合的理解力を若手研究者が習得するために、本拠点は国際共同教育プログラムを3コース用意し運営する。</p> <p>21世紀COEプログラムが掲げた三極構造はさらに拡充され、イスラーム文化の根底的理解のための教育研究が特別プログラムとして組織される。また、中間評価（平成16年）以来、積極的に取り組んできた仏教的人間学の再検討を継続しつつ、さらに拡大して、東アジアの伝統思想（<u>仏教、儒教、道教、神道など</u>）の21世紀的可能性を世界へ発信するプログラムをより一層、強化する。</p> <p>本センターの最終目標は、多様な視点から「人間存在の再定義」を試みることで、人類が直面する根本問題に対して、「<u>共生的世界観</u>」を打ち立てるための国際的な哲学教育研究ネットワークを形成することである。</p> <p>【拠点形成計画の概要】</p> <p>21世紀COE『共生のための国際哲学交流センター』の活動成果を受けて、本拠点は、「共生」という人類の理想のための哲学的なバックグラウンドを構築すべく、<u>多元的・多軸的な国際的教育研究プログラムを、国内・海外の研究者および若手研究者の共同によって実施する。</u></p> <p>東京大学のなかでも、理系と文系の両方にわたる研究者を多数擁する唯一の部局である総合文化研究科におかれる本拠点は、<u>領域横断的な知を求める超域文化科学専攻</u>に根を張った文系COEとして、同研究科内の理系COE『生命アルゴリズムを設計する異分野連合体』、文理融合COE『心とことば—進化認知科学的展開』と緊密に相互しながら、<u>文化的・歴史的存在としての「人間」について総合的な知の確立</u>を目指す。加えて、アジアからの発信力を強化し、イスラーム文化理解を推進するために、学内の東洋文化研究所から2名の事業推進担当者を迎え、共同の教育研究体制を構築する。</p> <p>「人間存在の再定義」の作業に向けて、本拠点では領域横断的な6つの研究部門が設けられる。それぞれの部門は、計23名の事業推進担当者のほかに、<u>100名以上の国内事業協力者と連携するとともに、5年に及ぶ21世紀COEの国際的な活動によって緊密な連携を確立してきた海外の事業協力者の中から約100名ほどを選任して共同活動を行う。</u>また、国内・海外の研究者および若手研究者の連携を通じて、研究と教育が表裏一体となった国際的共同プログラムが運営される。</p> <p>研究プログラムの当面の目標は、「共生」の展望のもとで、人間存在の「<u>支配・管理・維持・組織化</u>」といった根本的な機制を、「<u>時間（歴史）</u>」と「<u>他者</u>」のふたつの軸における「<u>伝達・命令・交流・交換</u>」の機制との関係において明らかにすることである。教育プログラムは、「<u>技術—倫理</u>」、「<u>表象—感性</u>」、「<u>歴史—政治</u>」の三つの軸に対応して組織される。博士課程学生、PD学生が学内外から公募によって選抜され、海外での研究発表やセミナー参加という実践経験を通じて、通常の博士課程教育よりはるかに厳しい制約と競争のもとで教育がおこなわれる。</p> <p>また、<u>仏教、儒教、道教、神道など東洋的ないしは日本的諸思想を、21世紀の世界化状況のもとで再解釈する試みに世界的な関心が高まっていること、国内の人文系研究者にとっては、イスラーム文化理解が今後、必要不可欠であることを考慮し、それぞれに特別教育研究プログラムを設置する。</u></p> <p>また、東京大学情報学環と連携したパリ・ポンピドゥーセンター内の「研究イノベーション・センター」とも提携して、メディア研究の国際ネットワークに参加するほか、国際発信型の活動運営を強化するため学内のクリティカル・ライティング・プログラムとの連携を深める。さらには、ITと出版両面にわたるエディター・オフィスを設けることで、<u>学術成果を効果的に海外発信するための事務機能を充実させる。</u>活動の成果は本拠点による記録集の刊行だけではなく、国際出版ないし国内商業出版を通して広く社会に公表するとともに、インターネット上でも日本語・英語で閲覧可能なHPを整備する。教育・研究の高い水準を維持し、さらに発展させるために、平成20年度以降は、拠点活動の国際的な評価体制を世界各地の大学、研究組織、研究者の協力を得て確立する予定である。</p>	

機 関 名	東京大学
拠点のプログラム名称	共生のための国際哲学教育研究センター
<p data-bbox="181 226 325 255">〔採択理由〕</p> <p data-bbox="165 262 1434 488">人文科学の危機を克服し、その活性化を図るための世界拠点を実現しようとする意欲的なプログラムであり、きわめて活発な21世紀COEプログラムの成果を継承しつつ、更に日本からの発信力を強化するための方策を具体的に展開するという優れた特徴を持つ。また、世界的に沈滞している人文科学を「共生」を中心とするテーマとする一貫した課題設定によってイスラムまでを視野に収めつつ新たに展開する着想の新規性は評価することができる。さらに、大学としての人文科学分野の研究と連携した全学的な体制は期待されるものである。</p> <p data-bbox="165 495 1434 600">人材育成面においては、大学院生、若手研究者が世界的に進出、発信する機会を積極的に確保にすることを目標として十分な支援体制を備えた計画は評価に値する。特に、21世紀COEプログラムにおいて構築した国際ネットワークの活用によって実現の可能性が高まっている。</p> <p data-bbox="165 607 1434 712">研究活動面においては、21世紀COEプログラムの成果として注目すべきものが数多くあり、また若手研究者による発表、刊行物も豊富である。また、上記の国際ネットワークを利用した研究交流を中心とする共同研究体制については具体的であり、優れている。</p> <p data-bbox="165 719 1434 1016">ただし、教育研究の基本テーマとする「共生」をはじめとして「世俗化」「多層・多様・多元」などの概念が現段階では極めて抽象的、感覚的であり哲学的な洗練を与えられていないので、下位区分された学問分野を相互に関連させ、着地点が見える具体的な研究を実施するためにはただちに十分な検討を加え、早急にその明確化を図ることが必要である。また、21世紀COEプログラムを継承してシンポジウム開催を中心とするように見える本プログラムの共同研究体制は、長期的かつ確実に持続可能な人材養成計画の実現という理念とは必ずしも整合的ではないので、人材養成を重視した計画として整理することが必要である。さらに、イスラムを含めて考察することを一つの特徴とするにあたり、その実施体制について再検討が望まれる。</p>	